

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	83	学校名	仙台市立川前小学校	校長名	大槻 千秋
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

- 3学年総合的な学習の時間 ～大豆の秘密を探る～
- 4学年総合的な学習の時間 ～里山を人が集まる森にしよう～
- 5学年総合的な学習の時間 ～地元の米作りに学ぶ～



2 取組の紹介

川前小学校では、総合的な学習の時間の中心柱を「地域」に設定しています。川前小学校を取り巻く「地域」の貴重な人的・自然的資産を、低学年の生活科、中・高学年の総合的な学習の時間に活用し学習を進めています。

3年生は「大豆の秘密を探る」、4年生は「里山を人が集まる森にしよう」、5年生は「地元のコメ作りに学ぶ」をそれぞれの学習テーマに設定し、自然や農業と人々の関わりを通して、豊かな自然や、地域の方々の思いに触れ、川前の地域をよりよくしていこうという気持ちを育みながら学習を進めています。

3年生は、学校に隣接している地域の方から借り受けた畑で大豆の栽培をしています。児童は、植物を育てる過程で土や水といった自然環境の大切さや、雑草を抜く手間や、川前地区に生息するイノシシの被害から作物を守るための工夫など多くの手が必要であることを学びました。

4年生は、学区内にある里山をベースにした学習を進めました。コロナ禍前には学校の里山として様々な活動をしていましたが、里山の管理をする方々の高齢化により、里山の保全が難しくなっている現状を目の当たりにしました。そこで、子供たちは里山を存続させるために自分にできることは何なのかを考えながら学習に取り組みました。

5年生は、今年で7年目となる地域の方から借り受けた田んぼでの稲作に取り組みました。苗植え、稲の観察や除草作業、稲刈り、脱穀作業などを体験しました。脱穀作業では、昔の脱穀機械を使用しながらの実体験を通して、昔の人々の農作業の苦労を味わいました。協力いただいている地域の方々が、「地元で採れた農作物を地元の人々に食べてほしい。」という「地産地消」の願いも肌で感じながら、川前のすばらしい自然環境を生かし、農業という産業を維持していく大切さを学びました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

子供たちは、川前地域の豊かな自然環境への関心を高めるとともに、環境を保全するためには自然を大事にするだけでなく、人々の自然に対する様々な働き掛けが必要であるということに気付くことができました。これらの学習を通して、自分たちの住む地域を取り囲む自然環境を守り続けていきたいという気持ちを高め、「SDGs」の「陸の豊かさも守ろう」につながる学習となりました。

3年生 みそづくり



4年生 里山の学習



5年生 苗植え



5年生 稲刈り

